

## IV 花 き

### 現 況

#### 1 キク

奥越の9月咲きコギク品種「映虹」「山手白」等の品種は9月10日頃より開花している。草丈は一部の品種を除いて90～110 cmで、出荷日量は100～200箱である。

10月咲き品種の「ミスベティ」は草丈90 cm前後である。病虫害として、「花乙女」はCMV感染が疑われる。またオオタバコガ、アブラムシ類、黒斑・褐斑病が発生しているが、一部ではトマト黄化えそ病と混同されている。

秋植え用の親株は、圃場によって芽立ちが悪くなっている。

坂井では9月5日の台風で、ネットごと横転した圃場が発生し、復旧の早晩により、茎の曲がりが発生している。病虫害としては、アザミウマ類(写真1)が部分的に少発生、ハダニ類が少～中発生している。

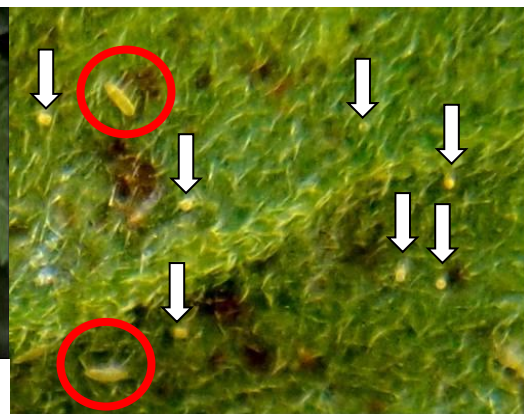


写真1 アザミウマ類の食害痕と成虫・卵

福井市の二日市町で、9月18日調査(昨年9月20日)では、春植え9月咲き小ギク品種の「山吹」(黄色)で草丈64 cm、9割程度収穫が終わった。品種によっては、収穫開始のものがある。病虫害として、下葉にアザミウマ類の被害が多発している。

福井市東郷地区で、9月18日調査(昨年9月20日)では、9月咲き小ギク品種の「ミスベティ」(桃色)が草丈71 cm、収穫は5割程度である。品種によっては収穫開始のものがある。病虫害としては、オオタバコガによる食害が少発生している。

9月7日に、福井花卉出荷組合で圃場巡回が行われた(写真2)。



写真2. 福井花卉出荷組合 巡回

越前町宮崎地区で、9月19日の調査(昨年9月21日)では、9月咲き小ギク品種の「ゆかり」(桃色)は収穫終了(昨年収穫終了)、「かれん」(赤色)が草丈82 cmで9割程度収穫(昨年88 cm、8割程度収穫)、「りぼん」(赤色)が草丈93 cmで収穫はほぼ終了(昨年95 cmで収穫終了)、「すいこ」(白色)が草丈95 cmで収穫終了(昨年89 cmで9割程度収穫)であり、昨年より収穫がやや早まっている。病虫害としては、黒斑・褐斑病が多発している。

越前市で、9月19日の調査(昨年9月21日)では、の9月咲き小ギク品種の「かがやき」(黄色)が草丈113 cm、蕾径10 mmで7割程度収穫(昨年収穫ほぼ終了)、「おちゃめ」(赤色)が草丈115 cm、蕾径13 mm、5%程度収穫(昨年119 cm、収穫盛期)、「わかさ」(白色)が草丈106 cm、蕾径11 mm、3割

程度収穫（昨年 120 cm、8 割程度収穫）であり、昨年より収穫が遅れている。病害虫としては、オオタバコガの食害が少発生している。

二州地区の 9 月咲き小ギクは、9 月 19 日の調査（昨年 9 月 14 日）で、「わかさ」が草丈 117.8 cm、蕾径 7.3 mm（昨年 90.6 cm で開花始め）、「映虹」が草丈 99.2 cm で開花盛期（昨年 89.0 cm で開花盛期）、「おりがみ」が草丈 108.6 cm で開花盛期（昨年 103.8 cm で収穫終了）であり、各品種とも昨年より草丈が長くなっている。台風や雨が続いたため、中央部の葉がすれて一部枯れている圃場があった。

10 月咲きコギクは、9 月 19 日の調査（昨年 9 月 14 日）で、「はくろ」が草丈 83.4 cm で未出蕾（昨年 68.0 cm で未出蕾）、「お吉」が草丈 93.2 cm で未出蕾（昨年 76.2 cm で未出蕾）、「ふるさと」が草丈 81.4 cm、蕾径 5.0 mm（昨年 58.8 cm、蕾径 5.1 mm）であり、昨年より草丈が長くなっている。

若狭地区の 9 月咲き小ギクは、5 月 20、21 日に定植された。9 月 18 日調査（昨年 9 月 15 日）で、「楽園」が草丈 98 cm で立弁（昨年 103.8 cm で開花始め）、「初秋」は収穫終了（昨年収穫終了）、「おりがみ」が草丈 103 cm で開花盛期（昨年 103.6 cm で収穫終盤）であり、その品種も昨年より草丈が低くなっている。

施設栽培の 10 月咲き小ギクは、9 月 18 日調査（昨年 9 月 15 日）で、「ようせい」が草丈 79 cm、蕾径 3.3 mm（昨年 86.6 cm、4.9 mm）、「白馬」が草丈 79.2 cm で未出蕾（昨年 82.2 cm で未出蕾）、「おりづる」が草丈 87.2 cm、蕾径 3.7 mm（昨年 108.0 cm、4.4mm）で、各品種とも昨年と比べると生育が遅く、またばらつきが見られる。病害虫としては、ハスモンヨトウが少発生している。

施設栽培の 11 月咲き小ギクの電照栽培作型では、7 月中旬に定植が行われた。9 月 18 日調査（昨年 9 月 15 日）で、「ようせい」が草丈 89.2 cm（昨年 44.2 cm）、「白馬」が草丈 77.6 cm（昨年 42 cm）、「おりづる」が草丈 74 cm（昨年 48.0 cm）で、生育は平年並みであった（昨年在特に生育が悪かった）。病害虫としては、アブラムシ類が微発生している。

寒ギクは 7 月中旬に定植された。9 月 18 日の調査（昨年 9 月 15 日）では、「冬一番」が草丈 36.6 cm（昨年 26.4 cm）、「寒桜」が草丈 38.8 cm（昨年 22.0 cm）、「新年の美」が草丈 35.8 cm（昨年 32.0 cm）で、昨年と比べると生育は早い。病害虫としては、シンクイムシとアブラムシ類が微発生している。

## 2 ユリ

坂井市春江町の LA ユリは、芽出しした球根の定植準備として、畝立てが行われている。

## 3 スイセン

越廼・越前地区で、9 月 11 日に花芽発生調査を行ったところ、おおむね花被分化期に達しており、昨年と生育は同程度であった。

## 4 ストック

坂井地区では、夏播き秋冬どりの作型に、アイアン系、アーリーアイアン系、「ホワイトコランダム」等の品種が用いられている。直播は 8 月 7 日から（昨年 8 月 8 日から）開始された。最も早い播種日のものは、草丈は 30～40 cm 程度まで育っている。移植苗は 8 月 6 日から（昨年 8 月 10 日）から定植が開始された。一番早いもので、草丈 20～25 cm まで育っている。病害虫としては、圃場によって差があるが、アオムシ、シンクイムシが少～多発生、あわら地区ではコナガが多発生している。

越前市では、カルテットシリーズが 8 月 20 日頃～9 月 20 日頃にかけて直播された（昨年は 8 月 22 日

～9月20日)。9月19日調査(昨年9月21日)で、8月20日頃播種の品種では、草丈9 cm、葉数10枚(昨年8月22日播種で6 cm、8枚)、8月末播種の品種では、草丈5 cm、葉数3枚(昨年8月29日から9月5日播種で5 cm、4枚)、9月20日頃播種の品種では、双葉が展開したところ(昨年9月12日から20日頃播種で双葉展開)であり、生育は昨年と同程度である。

若狭地区では、8月下旬から9月上旬に直播種が行われた。

## 5 トルコギキョウ

あわら市の抑制栽培(二度切り栽培)のレイナ系、ファルダ系、「サルサマリーン」で、購入した種子冷蔵苗の定植が8月3日から5日にかけて行われた。活着はおおむね良好である。9月20日の調査では、「サルサマリーン」の草丈が40～50 cmで一番花(天花)の開花が始まっている。8月が高温であったため、ボリュームがやや出ていない。また一部の品種では、葉先にCa欠乏の症状が出ている。10月上旬から出荷を予定している。病害虫としては、茎枯病、ピシウム立枯病が少発生している。またヨトウムシ類が部分的に中発生している。

越前市では、苗冷蔵の株を7月27日(昨年旧盆前)に定植した。「ダブルミント」が草丈58 cm、蕾長1 cm、「レイナホワイト」が草丈56 cm、蕾長4 cm(昨年50 cm、一番花開花)、「レイナピンク」が草丈60 cm、蕾長2 cmで、それぞれの品種で一番花が開花している。病害虫として、ハスモンヨトウの被害が少～中発生している。

## 6 切り花用ハボタン

福井市の二日市町の9月18日調査(昨年9月20日)では、「晴姿」が草丈33 cm(昨年40 cm)、「初紅」が草丈24 cm(昨年30 cm)であった。病害虫としては、アオムシの被害は少なくなっている。

福井市東郷地区の9月18日調査(昨年9月20日)では、「晴姿」が草丈42 cm(昨年45 cm)、「初紅」が草丈33 cm(昨年46 cm)であった。病害虫として、アオムシの被害は中程度である(写真3)。



写真3. ハボタンの栽培

## 1 8、9月咲きギク親株のハウス搬入と管理

- 1) 親株のハウス内への植え付け適期は11月上旬までである。キクの根は地温が5～6℃以下になると、新根の発生が悪くなるので、奥越地域や山間部では搬入を早めに行うことを励行する。
- 2) ハウス内に床幅90cm前後、高さ20cm程度の畝を準備する。土寄せ苗を7×10cm間隔で植え付ける。苗（親株）は太くがっしりした花芽のついていないものを選んで植える。
- 3) 植え付け床が乾いている場合は、1日前に灌水し、適湿にしておく。
- 4) 植え付け後は月に1～2回、ジマンダイセンフロアブルやコロナフロアブルで予防散布を励行する。白さび病が発生した場合は、病葉を取り除いた後にチルト乳剤などの治療剤を散布するが、最近各地域でサプロール乳剤の耐性菌がみられるため、EBI剤の散布回数は最小限にとどめる。
- 5) 害虫の卵や初齢幼虫は可視化が困難であるため、親株圃への持ち込みがちになる。特にアザミウマ類、ハダニ類については、葉裏、生長点を中心に殺虫剤、殺ダニ剤の散布を行い、親株圃での蔓延、次作圃場への持ち込みを防止する。チョウ目害虫については、プリンスフロアブル等で抑制することも重要である。殺ダニ剤は、生長点付近に重点的に散布し、キクモンサビダニ等による病気（紋々病）が親株圃に蔓延しないよう留意する。
- 6) 植え付け後は保温等を行い、速やかに活着させる。活着後は奥越では12月、若狭地域では1月下旬まではハウスサイドのビニールを開放し、低温に当てる。
- 7) 低温時の灌水はできるだけ控える。特に植え付けが遅れた場合に土壤水分が高い過湿状態では、活着不良になる場合がある。また、灌水する場合は晴天日の10時ごろがよく、灌水後は換気を十分に行う。

## 2 ストックの管理

- 1) 昼間の気温が高いと軟弱徒長しやすい。さらに菌核病が発生するので換気に十分注意する。夜温が8～10℃以下になれば、夜間はサイドビニールを閉めて保温するが、気温と湿度の上昇を防ぐため、晴天時には朝のうちにサイドビニールを開放して十分に換気する。
- 2) ストックのホウ素欠乏症は、葉、茎、花の各部位に発現し、葉の表皮の白化、茎割れ、茎の褐色斑点、開花異常の症状として現れる。定植時にホウ砂を1kg/a施用（ホウ素として0.36kg/a）すると発生を防止できる。
- 3) 出蕾を始めたら灌水、液肥施用は中止し、茎葉を硬くしめる。粘質土など乾きの遅い圃場では、さらに早めにこれらの対策を行う。
- 4) 菌核病は、連作地で発蕾期から発生し、株元から褐変して立枯れ症状で枯死する。灌水は午前中に済ませて株元の乾燥を図り、ポリバリン水和剤やトップジンM水和剤を散布する。
- 5) 収穫適期は3～4輪が開花した時（市場によって多少異なる）を目安とし、手で株を引き抜いて収穫する。抜いた株は株元の緑色の部分で切り戻し、花穂が曲がらないよう真っ直ぐに立てて水あげする。
- 6) 害虫では特にコナガの発生があるので登録のある薬剤を定期的にローテーション散布し徹底防除する。

## 3 トルコギキョウの定植作業

- 1) 栽培期間が長いいため、特に土づくりが重要である。優良堆肥を2～3t/10a施用し、30cm以上の深さで耕起する。また多湿にならないように、暗渠など排水対策を行う。

- 2) 無加温ハウスでは、遅くとも 11 月中旬までに植え付けをする。植え付け日の 1 週間程度前からハウスを密閉して、地温を十分あげてから植え付けする。
- 3) 本葉 4 枚になると茎立ち始めるので茎立ち前に定植する。
- 4) 植え付けは、晴天日の午前中か、暖かい曇天の日に済ませる。
- 5) 多湿条件下では、灰色かび病が発生しやすいので、換気を十分に行い、灰色かび病等の防除にアフットフロアブル等の薬剤による防除を励行する。
- 6) 育苗箱と植え付け後に液肥 500~1000 倍を根付け肥として施用する。

#### 4 スイセンの管理

- 1) 今年は降水量が多いが、圃場の灌排水をしっかり行き適湿にする。  
季咲スイセンでは、9 月上中旬に土壤水分が安定しないと開花期が遅れる傾向があるので、前年に葉先枯病の発生が少なく、用水が確保できる圃場では灌排水をこまめに行う。
- 2) 促成栽培は温度と灌水管理を十分に行い、品質の良い花を生産する。遮光資材の取り外しは、気温 25℃以下になった時点を目安とし、曇天の時に行う。促成栽培の灌水は 9 月下旬まで土壤水分を見ながら継続し、それ以降は灌水を停止し、根腐れ防止のため、溝さらえ等圃場排水を徹底する。
- 3) 出芽時にゲッター水和剤 1000 倍液で灰色かび病等の防除をする。
- 4) 球根養成圃場の準備  
球根養成圃場では、PK 化成を a 当たり 5 kg、マグフミン等の石灰資材を 10 kg 施す。
- 5) イノシシ等獣害対策の実施  
イノシシはミミズを食べるため、球根を掘り起こす。電気柵を張ったところでは、草刈や漏電防止の再確認も十分に行う。

#### 5 福井ユリの定植作業

- 1) 定植適期は各品種とも 11 月下旬~12 月上旬であるので、圃場の準備を進める。
- 2) ハウス周辺の排水対策を行い、定植 14 日前を目処に石灰類 10 kg/a、ようりん 4 kg/a、堆肥 300 kg/a を施用し、土壤酸度を pH5.5~6.5 に調整する。
- 3) 施肥は定植 7 日前に有機質肥料 (N-P-K = 6-5-5) 30 kg/a、草木加里 1 kg/a を全量基肥とし、EC を 0.8m S/cm 程度とする。
- 4) 畝は畝幅 120 cm (天幅 90 cm) で、栽植密度 12 cm×12 cm の 6 条植えを基本とする。分球している球根は 15 cm×20 cm に定植し、芽立ち後 2 本に整理する。球根の覆土は 7 cm とする。

#### 6 完熟堆肥の積み込み

施設栽培では、良品生産、連作障害回避のため、良質堆肥が必要である。

- 1) 本圃面積 10a に対し、水田 30a 分の稲わらを積み込む。
- 2) 稲わらにススキ (3 cm 程度に細かく切断したもの) を半分位混合して積み込むと、長持ちする良質の堆肥ができる。市販のモミガラ堆肥も積み込むことで、完熟に近くなる。
- 3) 積み込む場合、10a 分の稲わら (500~600 kg) に、水 1 トン弱と窒素分を補うため石灰窒素か硫安などを 20 kg 程度加え、積み込む。発熱後に、2~3 回の切り返しを行う。なお、リン酸分も加えるとリン酸の肥効が高まる。

